

若手研究会報

平成19年2月17(土)
愛知・若手教育者研究会

2月の例会を行いました。

- ◆期 日 平成19年2月17日(土) 午後2時～6時
- ◆場 所 愛知県西加茂郡三好町立北部小学校
- ◆参加者
霜田一敏(淑徳大学) 酒井宏明(三好町・北部小) 田村高浩(豊橋市・牛川小)
中島年隆(西尾市・西野町小) 小嶋邦男(西尾市・西野町小)
岩田圭司(武豊町立衣浦小) 川合英彦(豊田市立則定小)

今回は、2本の提案と、岩田先生のトルコ旅行記と、あっという間に時間が過ぎるほど充実していました。

【提案1】 郷土のお茶の学びを求める子どもたち
— 3年社会科「お茶の農家 杉田さんの仕事」の実践を通して—
西尾市立西野町小 中島年隆

- 1 子どもに対する教師の願い
 - ・ 地域に住む人の仕事を具体的に学び、その人の生き様にふれてほしい
 - ・ 問題解決的な学習の学び方を学ぶ機会にしてほしい。
- 2 研究の仮説と手立て
 - ・ お茶の教材化
具体物や地域の働く人に出会わせる。
 - ・ 特定のお茶農家を調べる
仕事の苦労、生き様に迫る。
- 3 実践
 - (1) お茶製品調べ(総合的な学習)
 - ・ 携帯でメールで写真付を学校に送る活動。
まっ茶ういろ、ゴーヤ茶、あま茶、まっ茶パン
Aまっ茶ケーキを家族に注文。創作キャラを作る。
※お茶学習への意欲の持続をはかることができた。
 - (2) お茶のイメージを膨らませる活動
 - ・ 消費者の視点から生産者の視点を持つ。
話し合いの中で、まっ茶と普通のお茶の違い、お茶摘み方、お茶の作り方が問題となる。→お茶工場の見学へ行きたい。
 - (2) お工場「あいや」の見学と話し合い
 - ※協議のポイント 何を話し合わせるか
 - ①事実の確認。自分がしなかったことを友達の発表で知る。
 - ②間違ったことを訂正しあう。
 - ＜A児の気づき＞ 失敗しないように気をつけている。一ヶ月にくる客は何人か。
なぜあいやという名前か。
 - (3) 杉田さんのお茶畑見学
 - お茶畑発見カードの活用とA児の気づき。

① 害虫をとるペットボトル ②お茶台の高さ→消毒するのにちょうどよい高さ

③ 消毒の仕方 ④防霜ファン

(課題1) 発見カードにたくさん書くことはできたが、調べたいことではなくなってしまった。

(課題2) 子どもの課題が 広がり收拾がつかなくなってしまった。

(成果) 杉田さんが身近な人になる。学校に給食にきてもらう。

■見学の後、学級で考える課題を3つに絞る。

1 消毒、 2 おおい、 3 お茶の木

(4) お茶名人への訪問とその後の話し合いの授業。

学級の課題 消毒 「ふんこ」の使い方

以下、中島先生の提案に対する協議です。

霜田 ①子どもの学習カードがレジュメで読めない。印刷など教師の朱、子どもの意見が読めることが大事。

②優等生が抽出児になっている。別の子を抽出児にすることで、実践の質をアピールできる。社会科がきれいな子が好きになったとか、お茶がきれいな子が好きになったという例がよい。説得力があがる。教師がしたことではなく、子どもが変わった姿を出す。子どもが変わったというのは本物の実践。A児以外ではないか。そうすると、実践に厚みがあります。

酒井 ①仮説は必要か。「体験活動をさせれば、仕事の苦労がわかる。」などのわかりきった仮説では意味がない。子どもがこんなに変わったということではよいのではないか。

霜田 たとえば仮説を「見えないものが見えてくる体験をすることによって、環境に目がむき気づく子どもが育つであろう。」とし、そういう子どもをどう育てるかをさらに仮説に加えてはどうか。

川合 実践の手立てが仮説になっている。実践が終わって、実践の「うり」を仮説にもってくるというのが、論文のまとめ方になっている。だから、仮説、手立て、実践、検証というスタイルで、手立ての有効性を強調するスタイルが一般化している。

霜田 「具体的な地域の人に出会わせれば、学習意欲が高まる」でなく、「どのような出会わせ方をすればよいのか」を仮説にする。お茶の名人といわれる人、経験と苦労をもった人の話を聞くことによって、今まで関心をもたなかった子どもが目をはかれる。そして、社会科きれいな子どもの目が見開き、自分から手紙を出したりするだろう。もし、そうならなかったら、どうすればよいのか。「そこでもう一度、出会いの場を設けた。人間的な子どもたちの情感を揺さぶるようなことが必要。しかも、1回2回と行うことが必要。」ということを書けばよい。「何回やれば、子どもが本気になるか。出会わせ方はどうすればよいのか」を実践から明らかにする論文になる。たとえば、子どもが本気になった例として、酪農農家への1、2回目見学では「えさ」、「飼い方」が質問事項であった子が3回目に「もうかるのか」と質問した、という報告がある。こうした出合わせ方に焦点を絞る。

田村 1 仮説にかかわって「生き様を追う」という以上、①杉田さんの生き方 ②子

どもがどうそれを感じ、どうかわったかをもっと記述するべき。

2 総合的な学習と社会科の関係について。総合的な学習としてのねらいを踏まえるとよい。「キャリア教育」という視点があってもいいのでは。だれに視点をあてるのか。リーダーとなる人に視点をもちてほしい。

3 お茶づくりのリーダー的経営者は「健康」という視点を持っているのでは。「お茶と健康」という視点があってもいい。

4 子どもの疑問をなぜ、3つにしぼったのか。

→中島 「学級の課題」を3つにしぼった。「個人の課題」はのこっていて、その後も追究をつづけ、お茶クイズなどにまとめている。

5 一番いい時期、忙しい時期に学習していないのがもったいない。生き様という以上、お茶づくりをしている人の真剣な「顔つき」を見たり、「忙しいから」と断られる体験も学習となる。

霜田 想像するのが社会科。子どもに実際に見えない事実がある。「どうして杉田さんは断ったのだろう」と想像する。事実を自分の世界に引き込んでくる社会科。たとえば「なんでまっ茶を作るのだろう」という疑問は生まれないか。西尾はまっ茶しかできない。という新しい認識が生まれる。社会に対する見方がかわる。事実とのズレを問題にするとそこから追究力が生まれる。

小島 この地域は「お茶＝まっ茶」があたり前。子どもたちには「西尾がなぜまっ茶なのか」を疑うことは難しい。まっ茶と煎茶の違いを意識するのはよほど意識して単元を組まないとでてこない。また、西尾で「お茶づくりの人は、5月とても忙しい」ということも、よく知っている。これも大前提。学校の運動会も秋にやっている。5月にはできない。理想論や一般論ではない地域の実態がある。

霜田 煎茶を子どもたちは飲まないのか？給食の後は？そうした疑問からスタートするのもよい。「売るためには、煎茶があってもいいのでは」という疑問が生まれてもよい。

小島 歴史的いきさつもある。武士が京都から取り寄せて始まったから。

霜田 煎茶ができないと聞いた。地域、環境に合わせたものを作っている。

小島 地域にどっぷりとつかっていると見えてこないものがある。

川合 「生き様に迫る」ために杉田さん、稲垣さんのどこを子どもに見せるか。消毒のところだけでなく、「何人でやっているのか」などの就労形態なども見せた方がいいのでは。

霜田 杉田さんと稲垣さんのどちらを選ぶか。道楽と仕事。「人間の生き様に迫る評価」として大切。

田村 でもそれは、5年生くらいの内容ではないか。

霜田 学年は関係ない。

川合 今の中島君の実践は、「仕事の苦労・工夫に気づかせる」という3年の目標はクリアしている。「生き様に迫る」という視点からの授業を深める。

酒井 その部分を仮説にしてはどうか。「対象する人物をばりばりで働いている人物を取り上げるよりもお年寄りを取り上げることで、共感が生まれ、思いに迫ることができる」という仮説。

酒井 予想を超えたところに動きが生まれたとき、仮説に縛られ、実践がみえなくなることがある。

霜田 実践の創造性。先生を乗り越える子ども。事実が生まれ、それはなぜか、と考える。名人について考えた子ども、おばあちゃんについて考えた子どものそれぞれの作文を読み比べてみるとよい。

【提案2】トルコ旅行記 ヨーロッパとアジアを結ぶ国 (2003年)
武豊町・衣浦小 岩田圭司先生

約1ヶ月に及ぶ独り旅の様子を美しい写真をプロジェクタを使って報告していただきました。メディアショウ(Media@Show:サイバーリンク社)というPCソフトの効果もよかったです。

- ◆アヤ・ソフィア(聖ソフィア寺院) イスタンブールにある。キリスト教とイスラム教の融合した寺院。トルコは今はイスラム教。
- ◆トプカト宮殿 ビザンツ時代の城壁。タイル細工の壁。お風呂は蒸し風呂。大理石のお風呂。日本の戦国時代のものもある。
- ◆新市街と旧市街。川で分かれている。つなぐ橋
- ◆ガラタ塔 イスタンブールの街を一望。
- ◆ドルマ宮殿 トプカト宮殿の後、19世紀からスルタンが住む。
- ◆初代大統領ケルマ・アタチュルクの書斎
- ◆グランドバザール 商店が集まっている。「ちょっと」と日本語で話しかけてくる。
- ◆イスタンブールを中心に城壁で囲まれている。
- ◆世界遺産エフェス
- ◆ミレトスの遺跡 とにかく綺麗。
- ◆世界遺産パムッカレ 石灰が固まって、真っ白。
- ◆世界遺産 カップパドキア
- ◆ローズバレー
- ◆岩の穴 隠れキリスト教徒の住み家

【提案3】(6年・社会) 戦国時代を生きぬいた人々
豊橋市立牛川小学校 田村高浩

17年度実践。豊橋・田原を舞台に活躍した戸田氏の生き様に触れ、戦国時代の人々の生き様を追究する実践。戸田氏は今川氏、松平氏、織田氏に翻弄されながら生き残りを模索した。当時、戸田氏は当時勢力が強かった今川氏を裏切って、人質・竹千代(松平)を織田氏に送った(竹千代強奪事件)。このときの、戸田氏の判断の理由を授業で扱った。「簡単に考えると、よくない判断だが、なぜ戸田氏はこの判断を下したのか。」これを追究する中で、織田・徳川・戸田の連合による反今川体制をめざした。ということを感じさせたい、という実践。豊橋市の愛社研の提案授業をベースにした実践。

＜提案後の協議から＞

小島 資料の作成はどうやって行ったか。

→田村資料作成、学芸員への相談などを教員グループで行った。

川合 戸田兄弟が兄弟で別々の道を歩んでいる点がおもしろい。戸田氏が生き延びるた

めの「保険」として、双方が合意していたのだろうか。江戸時代、松本城城主にまでなった戸田氏の後世とあわせて考えさせると面白い。

酒井 単元構想が、まどろっこしいのでは。前半と後半のつながりは。見学と話し合いの関連を持たせるといいのでは。

田村 先に戦国時代というものをとらえさせたかった。

酒井 戸田・竹千代強奪事件を単元の切り口とする方法もある。

田村 現実には難しい。戸田の資料作成で終わる。教材に埋没する。授業中あたり前のことがわかっていなくて話し合いをしている子どもがいる。また、おばさん先生は、専門性が高い授業として、嫌悪を抱いている。

小島 歴史の面白さを感じさせる授業。判断の材料を考えさせいる。おばさん先生は教えようとしているのではないか。だから専門性が高いといって嫌うのではないか。資料がしっかりあるといい。

霜田 誰でもできる社会科。家康や秀吉ではできないのか。はじめに3人の武将から入って、イメージしながら自分の地域を見る、と言う方が入りやすい。地域教材から入ると、専門の先生の趣味の社会科になる。子どもを狭い世界に追い込んでいるのではないか。子どもが知っている歴史から地域史に対する「子どもの問い」から発せられないか。

今回、中島先生の勤務先の小島先生と私の大学時代の仲間、田村先生が参加してくださいました。さすがベテランという感じの発言、ありがとうございました。また、今後も参加してください。

次回若手研について

◆ 日 時 平成19年3月11日(日) 午後2時から

◆ 場 所 愛知県西加茂郡三好町立北部小学校

参加をお待ちしています。

岩田先生、おめでとう！

岩田先生、3月17日(土)結婚式です。今日も結婚の準備を済ませて若手研に駆けつけてくれました。フィアンセが車で待ってみえました。独り旅が得意な岩田先生、これからの旅行は、二人旅ですね。